

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1495200048
法人名	社会福祉法人 ばなな会
事業所名	グループホーム のんびりーす
訪問調査日	2014年11月18日
評価確定日	2015年2月27日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 26 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495200048	事業の開始年月日	平成21年4月1日	
		指定年月日	平成21年4月1日	
法人名	社会福祉法人 ばなな会			
事業所名	グループホーム のんびりーす			
所在地	(211-0025) 川崎市中原区木月4-54-14			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	16名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成26年10月13日	評価結果 市町村受理日	平成27年4月7日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ご利用者様が家庭的環境の中で日々穏やかに自分らしく暮らせるような施設作りと、相手側に立った寄り添う介護に努めています。また、地域に密着するよう、自治会への参加、地域包括支援センター等の協働を図ってまいります。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成26年11月18日	評価機関 評価決定日	平成27年2月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>●この事業所の経営は、社会福祉法人ばなな会です。この法人は、株式会社アイ・ディ・エスと共に、パナナ園グループを構成しています。パナナ園グループは、川崎市のグループホームの草分けとして最初の事業所を平成10年に開設以来現在は、9事業所を運営しています。法人は、お客様の喜び、地域の喜び、社員の喜び実現をモットーに、利用者に対する緻密な介護プラン作成と、それに基づくサービス提供に努めています。その中の1つがグループホーム「のんびりーす」です。ホームは、東横線・元住吉駅より徒歩15分、メイン道路から若干奥まり、東海道新幹線高架近くの住宅と倉庫が併存する場所にありますが、施設内は静かで穏やかな環境が確保されています。</p> <p>●法人の理念は「明るく・楽しく・自由に、お客様の安全と尊厳、経営の安定、生活の向上を図る。そして我々のサービスを通じて地域社会に貢献する」です。理念は、リビングに掲示して毎朝のミーティングやケア会議で確認して職員間の共有を図っています。</p> <p>●人材育成の取り組みについては、法人として職員のスキルに応じて新入社員研修、非常勤研修、常勤研修、管理者研修があります。加えて、法人の研修を補う形で重要度の高い項目や緊急性のある事項について各事業所内研修が設けられています。研修内容は、接遇、認知症について、緊急時対応、虐待と拘束、リスク管理、薬の知識等、従事にあたり必要なものが網羅されています。併せて職員の福利厚生面にも力を入れています。入社から1年間のマナー、業務をチェックする「あゆみの記録」により、職員の成長過程を見守っています。そして、「自己評価に基づく人事評価制度」によって向上心を持って働ける仕組みが構築されています。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム のんびりーす
ユニット名	1 F

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の特性を活かした柔軟で多様なサービスを提供することができるよう、「明るく・楽しく・自由に」をモットーに、全職員、その理念を共有し実践に努めている。	「明るく、楽しく、自由に」の理念を常に念頭に置きながら、日々の介護サービスに取り組んでいます。毎月の本部での定例会議、年2回の本部での職員会議で理事長の理念に係わる訓話や指示があり、確認の機会にもなっています。ホームページにも記載されていて事務所にも掲示されています。	今後の継続	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域における環境資源(地域包括支援センター・地域民生児童委員・当グループ内における他の支援事業所)の有効活用。自治会活動・行事の積極的参加により、地域との関係を深める。	自治会に加入し、諸行事にも参加しています敬老の日などの記念品も頂いていますが、密接な関係までには距離があるとの認識で管理者は課題解決に取り組んでいます。他方、音楽療法の方や傾聴ボランティア「さいわい」のメンバーが毎月定期的に来訪し支援協力を得ています。	今後の継続	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じ、地域住民の方々や地域包括支援センター、ご家族様への活動報告と併せ、地域貢献につなげている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催している中で「地域包括支援センター、ご家族様、地域住民の方々と、サービスの実際評価の取り組み状況等について報告し、そこでの意見交換をサービス向上に活かしている。	地域包括支援センター担当者、音楽療法士、利用者並びにその家族の出席のもと2ヶ月毎に開催しています。メンバーに今後、町内会役員並びに民生委員の出席を得られるよう、課題として取り組む所存でいます。会議ではホームの現状報告や地域の行事の説明を受け、会議内容はホームページでも開示しています。	今後の継続	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護を受けている入居者が多いため、福祉事務所・あんしんセンターとの連携・相談・報告を密に行っている中で、協力関係を築いています。	市主催の「介護いきいきフェア」でブースを開設するなど協力関係を築き、相談に応じてもらったり、情報提供も受けています。また、福祉事務所・あんしんセンターと連携を図り協力関係があります。YMCAの実習生や近くの中学校の体験学習を受け入れ交流も図っています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロの手引き」による具体的な行為及びその弊害を、研修を通して職員全員が理解し、拘束のないケアに取り組んでいる。玄関の施錠に関しては、玄関前が道路の為、防犯及び安全面から入居時説明し施錠をしている。	身体拘束をしないケアについては、採用時研修、法人研修、事業所内研修が整い、職員全員が理解し、拘束のないケアに取り組んでいます。研修の中では、禁止事例としてマスクをさせてしまう、センサーマットを敷く等も取り上げています。玄関の施錠では、玄関前が道路の為、危険防止の観点から入居時説明して施錠をし、外出にはスタッフが同行することにしてます。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待防止」の研修を受け、それを全職員に周知し、理解度チェックおよび正しい知識の共有を図り防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当施設は、生活保護受給者多いため、生活保護関連の意識は強く、金銭面の管理等であんしんセンターや成年後見人を利用されている利用者様も多く、その必要性を学び、支援に活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は、「契約書」「重要事項説明書」を説明し、質問を受けながら十分な理解と納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の面会時や運営推進会議時に自由に意見交換が出来るよう、雰囲気作りや環境作りに努めている。ご意見箱を設置しており、外部機関の相談窓口も提示している。	重要事項説明書や運営規定、契約書に苦情の受付窓口とその対応を明記して、契約時に説明をしています。家族の来訪時や運営推進会議時に職員から気軽に声をかけをし、事業所での暮らしぶりを話す中から意見、要望等を聞いています。「今月のご様子」と言う文書を作成し、お知らせとして送っています。内容は生活の状況、医療に関する情報等で拘って担当者が手書きで記入し、家族の意見や意向を伺うことにもしています。電話やFAXでの問い合わせにも気楽に応じるように心がけています	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本部で行って定期的な研修会時に、業務方針、活動状況等を自由な意見交換の場を設けている。事業所では、朝夕礼時やケア会議時に意見を吸い上げ反映させている。	本部との合同会議等では「一言発言」を促し、活発な意見交換を行っています。年1回の自己評価表提出の際に意向も合わせ聞くことにしています。個別面談も適宜行い、意志の疎通を図っています。定められている24項目に亘る「マナーチェック表」を活用しての意見交換も行っています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各階層に応じた教育体系の下、月次年次計画により人材育成が実施され、実績に応じた評価を行い、各自が向上心を持ち働けるよう職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な社内研修を行っており、職員毎にその人に合った社外研修等に参加できる機会も確保し、個々のスキルアップを支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	社外研修の参加の機会を与え、職員全体が同業者と交流知る機会を作っている。また、ネットワーク作りなど、他事業者との連携、知識の共有などの意見交換を積極的に行い、サービスの質の向上へつなげている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の環境の変化による不安を取り除くよう、受容と傾聴に努め、ご本人が困っている事や不安に感じている事、要望等についてしっかり受け止め、安心した暮らしが提供できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人同様、ご家族様に対しても受容と傾聴努めている。意見等をよく話し合い、安心して納得していただけるよう信頼しあえる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談初期からご本人様及びご家族のニーズや意向により必要とする支援を見極め、環境を整え、他のサービスの利用も含めた幅広いサービス支援が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が出来ないことをさりげなく支援し、お互いに協力し合いながら共同生活が営め、信頼関係が築けるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人にとって精神的ケアでは大きな存在であるご家族様、そのご家族様がいつでも気軽に来られる雰囲気作りに努め、共にご本人を支えていける関係を築いていけるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	脳血管障害を持った方は、昔馴染みの場所に行くことで混乱してしまうことがあるので、ホームが馴染みの場所となるよう環境作りに努め、支援していく。個々に合ったケアが必要だと感じている。	馴染みの人や馴染みの場所も話題に出てくることは少なく、本人の言動や家族からの情報を活かしながら関係持続に努めています。また、ホームが馴染みの場所となるよう環境作りに努めています。2週間に1度訪れる傾聴ボランティアとの会話の内容も活かすようにしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	少人数による共同生活の中、共有する空間での活動に孤立しないように個々のニーズに応え、利用者様同士協力し合い、支え合える環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もその後の様子を伺いに訪ねたり、今までの関係性を大切にしながら、必要に応じて相談や支援に努めている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々の思い・希望・意向を表情で読み取れるように努めている。把握が困難な場合でも尊厳をもって関わり、検討している。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握については、入居前の情報や家族の話も含めて個人記録として落とし込み、スタッフ間で共有活用を行ない、また、日々の生活から表情等で読み取るよう努めています。把握が困難な場合でも尊厳をもって関わり、検討しています。外出先について希望が出ることもあり、応えています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用に至るまでの、ご本人様の生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境について、ご本人様やご家族様の協力を得ながらQOLの維持・向上に向けた状態の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の表情、行動、会話から、その方によって過ごしやすい環境かを注意深く観察し、定期的なモニタリングを実施して現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様や主治医との連携を図りながら、毎月行うケア会議にて意見を反映し、ご本人の心身の変化を把握し、モニタリングの後現状に則した介護計画を作成している。	介護計画作成については、ケア会議で個人日誌、連絡帳、業務日誌等の記録や家族からの情報並びに本人の意向を検討・確認しながら計画を策定しています。1カ月程度ケアしながら経過観察し、その結果得られたモニタリング評価、医療情報を元に作成した原案を、現状に則した最も適切と思われる介護計画を作成しています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日昼夜の介護記録(業務日誌・生活記録・健康チェック表等)を個別に記入し、そのポイントを朝夕の申し送り時に報告し、情報の共有を図っている。特に医師、ご家族様のご意見他、全ての情報は「連絡ノート」を活用し周知徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々営む生活の中で生まれる、様々なニーズに応える努力を図りながら取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の季節行事参加や事業所でのイベント開催をしている。防災訓練による地域住民との緊密化へ協働を図れるよう努め、穏やかに安心して暮らせるような環境作りに努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、かかりつけ医の確認と連携している地域の協力医療機関とのあり方を説明し、ご本人様とご家族様に納得して頂いた上で、適切な医療(24時間医療連携)を受けられるよう支援している。	月2回の内科医の往診、毎月の歯科医の往診を受けています。内科医の往診の際には薬剤師も同席してもらい、処方に基づく薬剤を速やかに届けてもらっています。看護師の巡回は毎週あり、さらに、24時間医療連携を受けられるよう支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、日常の関わりの中で捉えた情報や気づきや疑問点等を訪問看護師に相談協働しながら、個々のご利用者様への「日常の健康管理」につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、訪問診療の主治医より必要情報を提供し、早期退院へつながるように努めている。また退院時には、ケースワーカー等を通じて情報交換し、病院関係者との関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にご家族様としっかりと読み合わせをし、その趣旨内容を理解して頂いている。また、医師・看護師とも協議のうえ、医療連携の同意を交わしている。	「重度化した場合の対応に係わる指針」が定められ、その中では、医師や医療機関との連携、利用者及びその家族との話し合いや意思の確認等に触れ、その際の対応が明示されています。また、これに関する法人研修も実施され、職員は理解しています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルによる勉強会を実施している。他にも管轄の消防署の協力を得て、実践力を身につけていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練(総合訓練)を行い、避難経路等を提示し、ご利用様が避難できる方法を全職員が身につけ、安全確保に努めている。また、訓練実施の際は、近隣住民の方々へも通知し、地域との協力体制を築いている。	年2回消防署立ち会いのもと夜間も想定しての防災訓練を行っています。避難場所や避難経路に関しても確認し、消化器の取り扱いや定期点検も実施しています。また、訓練実施の際は、近隣住民の方々にも通知を行ない、地域との協力体制を築いています。職員はADL取り扱いの体験も行なっています。備蓄に関しては、レトルト食品を主に水の確保と併せて備えています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「個人情報保護規定マニュアル」の遵守に努め、日々の支援においてプライバシー空間の確保をしている。声かけの際はその方の人格を尊重し、誇りを損なわないよう配慮し接し、併せて記録管理も行っている。	理念である「明るく、楽しく、自由に」を徹底し浸透するように努めています。利用者の生活体験や性格を尊重するように心がけ、日々の言動にも注意を払い、些細なことでも日誌に記入し、管理者を交えてチェックし、相談しながら対応しています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ひとりひとりが持つ意欲・積極性・嗜好性・願望などの思いを理解し、導き出せるような接し方で具体的なものを示し、自己解決できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の意志や希望を第一に考え、ひとりひとりの日々の過ごし方のペースを大切に、無理のない生活が送れるよう柔軟に支援、対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの整容や衣服についてはご本人様と一緒に話し合い、楽しみながら気持ちのいい日々を過ごせるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配食による食材によって季節感のあるメニューになっており、カロリーや塩分についても健康に配慮されている。その調理の下ごしらえや盛り付け、後片付けを入居者様の能力に応じて職員と一緒に楽しく行っている。	利用者の楽しみの1つである食事に関しては、配食業者による食材を用い、季節感のあるメニューを工夫しながら調理や盛り付けを一緒に行っています。利用者には食事の準備や片付けに出来る範囲で協力してもらっています。クリスマス等の行事食では、職員の手作りで準備して楽しんでいます。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配食サービスにより栄養管理された献立になっている。調理の際は個々の方の摂取制限や嚥下能力に合わせ、刻み、とろみ、お粥等の調理形態の工夫をしている。また、水分摂取を含めた1日の摂取量を集計、健康管理につなげている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔維持は、誤嚥性肺炎につながりかねない重要なものとして、個々の方の能力、心身状態に応じた支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ひとりひとりの排泄パターン(タイミング、尿意勉にへの自覚)を把握し、定時の声かけや誘導によって失禁やオムツの使用を出来るだけ少なくできるよう、排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄表などで本人の排泄パターンを把握し、さりげなくトイレ誘導する等、自立支援に努めています。自尊心、尊厳を保てるように、声かけと周囲の眼差しにも配慮しながら対応しています。オムツ使用が少なくなるよりにハビリと介助に努め、自立排泄が可能なまでに回復した実績もあります。スタッフはその経験を下に、次の努力目標の1つに掲げて努めています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々のご利用者様の排便状態を把握し、便秘防止へ工夫した飲食物の摂取を図り、適度な室内運動を交えながら予防に努めている。また便秘傾向の方には、主治医との相談の上、その方に合った整腸剤、下剤の服用も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	その日の体調など、入浴に支障がないことを確認の上、ご利用者様の希望やタイミングに合わせて入浴している。安全面では、浴室と脱衣所の温度差に配慮し、季節には「ゆず湯」「菖蒲湯」などで楽しい入浴につなげている。	入浴は、週2回のサイクルで利用してもらっています。その日の個々の体調や、入浴に支障がないことを確認し、利用者の希望やタイミングに合わせて入浴を支援しています。入浴を嫌がる方には、体重測定のついでに勧める工夫をしたりしています入浴剤を活用する等の変化をもたせ、季節毎のゆず湯や菖蒲湯も準備して楽しんでもらっています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動時間を多めにするなど、安眠への工夫を図りながら、ご本人の意思を尊重し、その時々状況に応じて適宜休息を取り入れられるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとりひとりの服薬情報については、全職員が「薬の説明書一式ファイル」及び「服薬チェック表」にて、目的、副作用、用法、用量を理解しており、日々の服薬状況を観察し、変化があれば主治医への報告を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、家事(下膳・後片付け・掃除・洗濯物たたみ等)のお手伝いを個々の能力に応じてしていただくことにより、「自己存在感」「生涯発達」を大切に、張り合いのある暮らしへ支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を肌で感じていただくためにも、できるだけ散歩や外出の機会を設けている。春にはお花見など全員で外出をしている。また、ご家族様と相談の上、お墓参りなどご家族と一緒に外出できるよう支援している。	運動や日常の変化をもたせる観点から散歩や外出を維持することに努めています。春の花見や地域のお祭り、小学校の運動会、バザー等の見学にも出かけて楽しんでもらっています。また、ご家族と相談の上、お墓参りなどを一緒に外出できるよう支援しています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	散歩しながら飲み物や嗜好品などをご自分の財布で購入、お金を持つことの大切さ、それを使用できることなど個々の希望や能力に応じた自己決定を尊重しながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご入居者様の希望があった場合、電話でご家族様の声を聴き安心していただいたり、個々の能力に合わせて暑中見舞いや年賀状作成の支援をしている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	「生活の場」として季節感のある花を飾ったり、折り紙で職員と一緒に飾り付けをしている。トイレは迷われないよう大きな字で表示したり、ご利用者様にとって不快や混乱を招くような刺激がないよう常に配慮し、居心地良く過ごしていただけるよう工夫している。	共有空間の限られたスペースの活用を工夫し、花を飾り季節感を醸し、快適に過ごせるよう配慮され、リビングには裁縫による利用者の手作り作品やシール貼りの作品等、賑やかな共用空間作りがなされています。毎月発行の広報誌「バナナ新聞」をポスティングしやすいように折る作業を協力してもらおう場所としても利用しています。		今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	時には落ち着いて居室で一人の時間を持ったり、気の合った者同士でそれぞれの物語を語りあったり、歌を一緒に歌ったりとできるようリビングにはソファを置き、穏やかに過ごせるよう工夫をしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にはご本人様やご家族様と相談しながら「馴染みのもの」を持参していただけるよう説明をしている。またご本人様と相談し居室の模様替えをしたり、居心地良く過ごせるよう工夫している。	居室は、これまで使い慣れた調度品を持参してもらい、住み慣れた家族的な雰囲気に整え、本人が寛げる部屋に工夫しています。室内の清掃は出来る方には自立維持の観点から共同で行っています。シーツ等の交換は、1週間毎に行ない、寝具は乾燥機を使用して快適に過ごせるように配慮しています。		今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室・居室には手摺を取り付け、テーブルやソファの配置を工夫し、その方にとって安全かつ自立できる動線として可能か、「自分のことは自分でする」の主体性を尊重した生活が送れるよう工夫している。			

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム
のんびりーす

作成日

平成26年11月18日

達成計画]

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
2	1	平成22年12月に現住所へ移動し、新住所での地域密着型対応へ取り組んできたが、まだ定着されていない点がある為、これからも努力が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員への対応 ・地域ボランティアの受け入れ ・地域包括支援センターへの対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回以上の訪問 ・地域へは毎月バナナニュースの配布と地域活動への参加 	平成27年10月
1	33	職員全員、急変や事故発生時の備えに十分とは言えない。	<ul style="list-style-type: none"> ・急変、事故発生の際、職員全員が適切な対応ができるよう、実践力を身につける。(正しい知識を身につける) 	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルによる勉強会の実施、管轄の消防署の協力を得て「緊急蘇生法」の訓練を行い、実践力を身につける。 	平成27年4月
3	36	その人が、その人らしく暮らせるためにはどうしたら良いのか？さらなる環境整備の必要性を感じる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとりひとりの思い、希望、意向を把握し、ケアの方向性を統一する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な介護計画の見直しをし、職員全体で常に具体的に話し合う。守秘義務の徹底。 	平成27年4月

評価項目の番号を記入すること。
場合は、行を追加すること。

事業所名	グループホーム のんびりーす
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の特性を活かした柔軟で多様なサービスを提供することができるよう、「明るく・楽しく・自由に」をモットーに、全職員、その理念を共有し実践に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域における環境資源(地域包括支援センター・地域民生児童委員・当グループ内における他の支援事業所)の有効活用。自治会活動・行事の積極的参加により、地域との関係を深める。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じ、地域住民の方々や地域包括支援センター、ご家族様への活動報告と併せ、地域貢献につなげている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催している中で「地域包括支援センター、ご家族様、地域住民の方々と、サービスの実際評価の取り組み状況等について報告し、そこでの意見交換をサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護を受けている入居者が多いため、福祉事務所・あんしんセンターとの連携・相談・報告を密に行っている中で、協力関係を築いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロの手引き」による具体的な行為及びその弊害を、研修を通して職員全員が理解し、拘束のないケアに取り組んでいる。玄関の施錠に関しては、玄関前が道路の為、防犯及び安全面から入居時説明し施錠をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待防止」の研修を受け、それを全職員に周知し、理解度チェックおよび正しい知識の共有を図り防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当施設は、生活保護受給者多いため、生活保護関連の意識は強く、金銭面の管理等であんしんセンターや成年後見人を利用されている利用者様も多く、その必要性を学び、支援に活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は、「契約書」「重要事項説明書」を説明し、質問を受けながら十分な理解と納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の面会時や運営推進会議時に自由に意見交換が出来るよう、雰囲気作りや環境作りに努めている。ご意見箱を設置しており、外部機関の相談窓口も提示している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本部で行っている定期的な研修会時に、業務方針、活動状況などを自由な意見交換の場を設けている。事業所では、朝夕礼時やケア会議時に意見を吸い上げ反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各階層に応じた教育体系の下、月次年次計画により人材育成が実施され、実績に応じた評価を行い、各自が向上心を持ち働けるよう職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な社内研修を行っており、職員毎にその人に合った社外研修等に参加できる機会も確保し、個々のスキルアップを支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	社外研修の参加の機会を与え、職員全体が同業者と交流知る機会を作っている。また、ネットワーク作りなど、他事業者との連携、知識の共有などの意見交換を積極的に行い、サービスの質の向上へつなげている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の環境の変化による不安を取り除くよう、受容と傾聴に努め、ご本人が困っている事や不安に感じている事、要望等についてしっかり受け止め、安心した暮らしが提供できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人同様、ご家族様に対しても受容と傾聴努めている。意見等をよく話し合い、安心して納得していただけるよう信頼しあえる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談初期からご本人様及びご家族のニーズや意向により必要とする支援を見極め、環境を整え、他のサービスの利用も含めた幅広いサービス支援が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が出来ないことをさりげなく支援し、お互いに協力し合いながら共同生活が営め、信頼関係が築けるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人にとって精神的ケアでは大きな存在であるご家族様、そのご家族様がいつでも気軽に来られる雰囲気作りに努め、共にご本人を支えていける関係を築いていけるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	脳血管障害を持った方は、昔馴染みの場所に行くことで混乱してしまうことがあるので、ホームが馴染みの場所となるよう環境作りに努め、支援していく。個々に合ったケアが必要だと感じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	少人数による共同生活の中、共有する空間での活動に孤立しないように個々のニーズに応え、利用者様同士協力し合い、支え合える環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もその後の様子を伺いに訪ねたり、今までの関係性を大切にしながら、必要に応じ相談や支援に努めている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々の思い・希望・意向を表情で読み取れるように努めている。把握が困難な場合でも尊厳をもって関わり、検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用に至るまでの、ご本人様の生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境について、ご本人様やご家族様の協力を得ながらQOLの維持・向上に向けた状態の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の表情、行動、会話から、その方によって過ごしやすい環境かを注意深く観察し、定期的なモニタリングを実施して現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様や主治医との連携を図りながら、毎月行うケア会議にて意見を反映し、ご本人の心身の変化を把握し、モニタリングの後現状に則した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日昼夜の介護記録(業務日誌・生活記録・健康チェック表等)を個別に記入し、そのポイントを朝夕の申し送り時に報告し、情報の共有を図っている。特に医師、ご家族様のご意見他、全ての情報は「連絡ノート」を活用し周知徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々営む生活の中で生まれる、様々なニーズに応える努力を図りながら取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の季節行事参加や事業所でのイベント開催をしている。防災訓練による地域住民との緊密化へ協働を図れるよう努め、穏やかに安心して暮らせるような環境作りに努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、かかりつけ医の確認と連携している地域の協力医療機関とのあり方を説明し、ご本人様とご家族様に納得して頂いた上で、適切な医療(24時間医療連携)を受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、日常の関わりの中で捉えた情報や気づきや疑問点等を訪問看護師に相談協働しながら、個々のご利用者様への「日常の健康管理」につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、訪問診療の主治医より必要情報を提供し、早期退院へつながるように努めている。また退院時には、ケースワーカー等を通じて情報交換し、病院関係者との関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にご家族様としっかりと読み合わせをし、その趣旨内容を理解して頂いている。また、医師・看護師とも協議のうえ、医療連携の同意を交わしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルによる勉強会を実施している。他にも管轄の消防署の協力を得て、実践力を身につけていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練(総合訓練)を行い、避難経路等を提示し、ご利用者様が避難できる方法を全職員が身につけ、安全確保に努めている。また、訓練実施の際は、近隣住民の方々へも通知し、地域との協力体制を築いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「個人情報保護規定マニュアル」の遵守に努め、日々の支援においてプライバシー空間の確保をしている。声かけの際はその方の人格を尊重し、誇りを損なわないよう配慮し接し、併せて記録管理も行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ひとりひとりが持つ意欲・積極性・嗜好性・願望などの思いを理解し、導き出せるような接し方で具体的なものを示し、自己解決できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の意志や希望を第一に考え、ひとりひとりの日々の過ごし方のペースを大切に、無理のない生活が送れるよう柔軟に支援、対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの整容や衣服についてはご本人様と一緒に話し合い、楽しみながら気持ちのいい日々を過ごせるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配食による食材によって季節感のあるメニューになっており、カロリーや塩分についても健康に配慮されている。その調理の下ごしらえや盛り付け、後片付けを入居者様の能力に応じて職員と一緒に楽しく行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配食サービスにより栄養管理された献立になっている。調理の際は個々の方の摂取制限や嚥下能力に合わせ、刻み、とろみ、お粥等の調理形態の工夫をしている。また、水分摂取を含めた1日の摂取量を集計、健康管理につなげている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔維持は、誤嚥性肺炎につながりかねない重要なものとして、個々の方の能力、心身状態に応じた支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ひとりひとりの排泄パターン(タイミング、尿意勉にへの自覚)を把握し、定時の声かけや誘導によって失禁やおムツの使用を出来るだけ少なくできるよう、排泄の自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々のご利用者様の排便状態を把握し、便秘防止へ工夫した飲食物の摂取を図り、適度な室内運動を交えながら予防に努めている。また便秘傾向の方には、主治医との相談の上、その方に合った整腸剤、下剤の服用も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	その日の体調など、入浴に支障がないことを確認の上、ご利用者様の希望やタイミングに合わせて入浴している。安全面では、浴室と脱衣所の温度差に配慮し、季節には「ゆず湯」「菖蒲湯」などで楽しい入浴につなげている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動時間を多めにするなど、安眠への工夫を図りながら、ご本人の意思を尊重し、その時々状況に応じて適宜休息を取り入れられるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとりひとりの服薬情報については、全職員が「薬の説明書一式ファイル」及び「服薬チェック表」にて、目的、副作用、用法、用量を理解しており、日々の服薬状況を観察し、変化があれば主治医への報告を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、家事(下膳・後片付け・掃除・洗濯物たたみ等)のお手伝いを個々の能力に応じてしていただくことにより、「自己存在感」「生涯発達」を大切に、張り合いのある暮らしへ支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を肌で感じていただくためにも、できるだけ散歩や外出の機会を設けている。春にはお花見など全員で外出をしている。また、ご家族様と相談の上、お墓参りなどご家族と一緒に外出できるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	散歩しながら飲み物や嗜好品などをご自分の財布で購入、お金を持つことの大切さ、それを使用できることなど個々の希望や能力に応じた自己決定を尊重しながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご入居者様の希望があった場合、電話でご家族様の声を聴き安心していただいたり、個々の能力に合わせて暑中見舞いや年賀状作成の支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	「生活の場」として季節感のある花を飾ったり、折り紙で職員と一緒に飾り付けをしている。トイレは迷われないよう大きな字で表示したり、ご利用者様にとって不快や混乱を招くような刺激がないよう常に配慮し、居心地良く過ごしていただけるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	時には落ち着いて居室で一人の時間を持ったり、気の合った者同士でそれぞれの物語を語りあったり、歌を一緒に歌ったりとできるようリビングにはソファを置き、穏やかに過ごせるよう工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にはご本人様やご家族様と相談しながら「馴染みのもの」を持参していただけるよう説明をしている。またご本人様と相談し居室の模様替えをしたり、居心地良く過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室・居室には手摺を取り付け、テーブルやソファの配置を工夫し、その方にとって安全かつ自立できる動線として可能か、「自分のことは自分でする」の主体性を尊重した生活が送れるよう工夫している。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム
のんびりーす

作成日

平成26年11月18日

達成計画]

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
2	1	平成22年12月に現住所へ移動し、新住所での地域密着型対応へ取り組んできたが、まだ定着されていない点がある為、これからも努力が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員への対応 ・地域ボランティアの受け入れ ・地域包括支援センターへの対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回以上の訪問 ・地域へは毎月バナナニュースの配布と地域活動への参加 	平成27年10月
1	33	職員全員、急変や事故発生時の備えに十分とは言えない。	<ul style="list-style-type: none"> ・急変、事故発生の際、職員全員が適切な対応ができるよう、実践力を身につける。(正しい知識を身につける) 	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルによる勉強会の実施、管轄の消防署の協力を得て「緊急蘇生法」の訓練を行い、実践力を身につける。 	平成27年4月
3	36	その人が、その人らしく暮らせるためにはどうしたら良いのか？さらなる環境整備の必要性を感じる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとりひとりの思い、希望、意向を把握し、ケアの方向性を統一する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な介護計画の見直しをし、職員全体で常に具体的に話し合う。守秘義務の徹底。 	平成27年4月

評価項目の番号を記入すること。
場合は、行を追加すること。